

[別紙 2]

審査の結果の要旨

氏名 有本 梓

本研究は行政保健師が児童虐待予防の観点で個別支援を行った事例に着目し、保健師がどのように複数の専門職・地域住民と協力して個別支援を行ったのかを明らかにするために、質的記述的研究を行い専門技術の明確化および実践理論の構築を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 保健師が専門職・地域住民と協力する場面と行動に着目し、保健師が誰に対して何のために行動を行っているのかに主眼を置いて分析した結果、‘保健師が複数の専門職・地域住民と協力して行う個別支援’として、《家族の全体像を多面的に見極める》、《家族と地域のつながりをつくる》、《地域で子育てをわかちあう》、《地域のつながりを維持する》の4カテゴリ、8サブカテゴリ、24概念が抽出された。
2. 保健師がかかわっている期間内では、支援が必要な状況が繰り返し起こり、その際に共通して繰り返される一連の実践が存在することが明らかになった。‘この一連の実践を保健師が複数の専門職・地域住民と協力して行う個別支援’の全体構造として、家族の状態によって始まり進展する支援プロセスを示した。子どもとその母親・父親、祖父母、おじ・おば等の同居・別居を問わない血縁関係のある人々(以下、家族とする)へ働きかける支援と、家族を支える関係職種・地域住民(以下、関係者とする)へ働きかける支援が並行して行われていた。これは本研究で着目した個別支援の重要な特徴であった。
3. 家族を支援するために関係者と協力する一連の実践の始まりと終結を保健師が判断する際の根拠となっていた「家族の問題解決能力」と「協力する関係者の広がり」を二軸として支援プロセスを図示した。保健師が個別支援の過程で行う協力体制をつくる技術をプロセスとともに具体的に明らかにした。保健師は、最初の対応方針を決めるために、《家族の全体像を多面的に見極める》ことをしていた。保健師は自ら得た情報に基づいて〈家族の育児能力を見極める〉ことを行いながら、関係者とともに〈問題を整理し何の支援が必要かを見極める〉ことを行っていた。次に、保健師は、家族と育児の相談等を

通じて〈家族と地域のつながりの基盤をつくる〉ことを行いながら、関係者には〈関係者に危機感を伝え協力を得る〉働きかけをし、《家族と地域のつながりをつくる》ことを行っていた。保健師は《家族と地域のつながりをつくる》中で家族との相談関係を徐々に築きながら、《家族の全体像を多面的に見極める》ことを同時に繰り返し行っていた。さらに、保健師は家族と地域のつながりが作られたところで、保健師は《地域で子育てをわかちあう》ように〈家族とともに育児を見直す〉ことをしながら、〈関係者と家族の橋渡しをする〉ことを行っていた。家族に関係者とのつながりができても、保健師は《地域のつながりを維持する》ことを意識し、家族に対する支援が続くよう〈関係者の協力体制を機能させる〉ことと並行し、保健師自身も〈保健師と家族とのつながりを維持する〉ことを行っていた。

4. 保健師の専門技術を表す 24 の概念について、各概念を示す代表的な保健師の語りを例示しながら具体的に記述した。虐待予防を目指した個別支援での保健師の姿勢および技術と、保健師が長い支援経過の中で駆使していた様々な技術が明らかとなった。特に、個人・家族を地域でささえるために保健師が地域に密着した様々な業務の中で関係者と協力する技術に着目し、個別支援のプロセスの中で具体的に明示した。

以上、本論文は、質的記述的研究により、行政保健師が児童虐待予防の観点で個別支援を行った事例に着目し、個別支援で保健師が用いている関係職種と協力する技術を明確化し、支援プロセスとして構造化した。本研究はこれまで重要な保健師の能力・技術と考えられてきたにもかかわらず、定義や支援内容が明らかではなく、未だ理論化されてこなかった、保健師が専門職や地域住民と協力する技術を明確化し、保健師による個別支援・地域支援の方法論の確立、および、未だ社会問題となっている児童虐待の予防に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。